

○「はり師、きゅう師及びあん摩・マッサージ・指圧師の施術に係る療養費の支給について」新旧対照表

(傍線部分は改正部分)

新	旧
<p>1 はり、きゅう</p> <p>(1) 初検料</p> <p>① 1術 (はり又はきゅうのいずれか一方) の場合 <u>1, 780円</u></p> <p>② 2術 (はり、きゅう併用) の場合 <u>1, 860円</u></p> <p>(2) 施術料</p> <p>① 1術 (はり又はきゅうのいずれか一方) の場合 1回につき 1, 550円</p> <p>② 2術 (はり、きゅう併用) の場合 1回につき 1, 610円</p> <p>注 はり又はきゅうと併せて、施術効果を促進するため、それぞれ、はり又はきゅうの業務の範囲内において人の健康に危害を及ぼすおそれのない電気針、電気温灸器又は電気光線器具を使用した場合は、電療料として1回につき<u>34円</u>を加算する。</p> <p>(3) 往療料 2, 300円</p> <p>注1 往療距離が片道4キロメートルを超えた場合は、2, 550円とする。</p> <p>注2 片道16キロメートルを超える場合の往療料は往療を必要とする絶対的な理由がある場合以外は認められないこと。</p> <p>(4) 施術報告書交付料 <u>480円</u></p>	<p>1 はり、きゅう</p> <p>(1) 初検料</p> <p>① 1術 (はり又はきゅうのいずれか一方) の場合 <u>1, 770円</u></p> <p>② 2術 (はり、きゅう併用) の場合 <u>1, 850円</u></p> <p>(2) 施術料</p> <p>① 1術 (はり又はきゅうのいずれか一方) の場合 1回につき 1, 550円</p> <p>② 2術 (はり、きゅう併用) の場合 1回につき 1, 610円</p> <p>注 はり又はきゅうと併せて、施術効果を促進するため、それぞれ、はり又はきゅうの業務の範囲内において人の健康に危害を及ぼすおそれのない電気針、電気温灸器又は電気光線器具を使用した場合は、電療料として1回につき<u>30円</u>を加算する。</p> <p>(3) 往療料 2, 300円</p> <p>注1 往療距離が片道4キロメートルを超えた場合は、2, 550円とする。</p> <p>注2 片道16キロメートルを超える場合の往療料は往療を必要とする絶対的な理由がある場合以外は認められないこと。</p> <p>(4) 施術報告書交付料 <u>460円</u></p>

2 あん摩・マッサージ

(1) マッサージを行った場合  
1局所につき 350円

(2) 温罨法を(1)と併施した場合  
1回につき 125円加算

注 温罨法と併せて、施術効果を促進するため、あん摩・マッサージの業務の範囲内において人の健康に危害を及ぼすおそれのない電気光線器具を使用した場合にあっては、160円とする。

(3) 変形徒手矯正術を(1)と併施した場合  
1肢につき 450円加算

注 変形徒手矯正術と温罨法との併施は認められない。

(4) 往療料 2, 300円

注1 往療距離が片道4キロメートルを超えた場合は、2, 550円とする。

注2 片道16キロメートルを超える場合の往療料は往療を必要とする絶対的な理由がある場合以外は認められないこと。

(5) 施術報告書交付料 480円

2 あん摩・マッサージ

(1) マッサージを行った場合  
1局所につき 350円

(2) 温罨法を(1)と併施した場合  
1回につき 110円加算

注 温罨法と併せて、施術効果を促進するため、あん摩・マッサージの業務の範囲内において人の健康に危害を及ぼすおそれのない電気光線器具を使用した場合にあっては、150円とする。

(3) 変形徒手矯正術を(1)と併施した場合  
1肢につき 450円加算

注 変形徒手矯正術と温罨法との併施は認められない。

(4) 往療料 2, 300円

注1 往療距離が片道4キロメートルを超えた場合は、2, 550円とする。

注2 片道16キロメートルを超える場合の往療料は往療を必要とする絶対的な理由がある場合以外は認められないこと。

(5) 施術報告書交付料 460円